梅乃由兵衛女長吉

初篇

梅彦綴國貞筆

へ13
4275
2

へ13
4275
1

へ13
4275
1

莊子が儀を革れ猶千宿して栽る雙嫁く狂ひを見ぬる
宋五郎何まで金留と嫁く笄あり其のありなるべく撥ぶ事に
遠くも何ら好き愈井戸の梅鍊樓が手に爲く蘆苗千似る
筆れ先児幼何ぞ其を鹿鯀を嫁宮もあるる夏牝云ハ何ら教
報向も云何作の猶の頓智愈郎是宮鯀多く葉子の
阿宗十方あと称ハてふの三世佛也ハ何ぶらよ何ぶらを
花よ出よ人ハ嫁を消を舩の閑悟まだ何ぶらを挑起る逆出
幸苦の笄二世ひとなく三世因果を天窓の開閉に唯
ひ嗜ひを釋んとあらばなく傳くを大尾まで覺結へ

初夏ちつ甚ろ社鶴
啼そむる朝席を

柳水亭種清

<92-1415>

世界拾初

五條橋上ゝ
両雄闘争ノ圖

源
佐
松

吾
右
幸

世界神話

縁

国津ち小補助

六
与
佐

伊
松
吾

照
濁

虎

照

照
濁

市

権

源

権
源

へ13
4275
2

三

寶

推

<92-14167

源
権

由

三
幸
照

雷
鬼

三
長
車

市
悪
悪

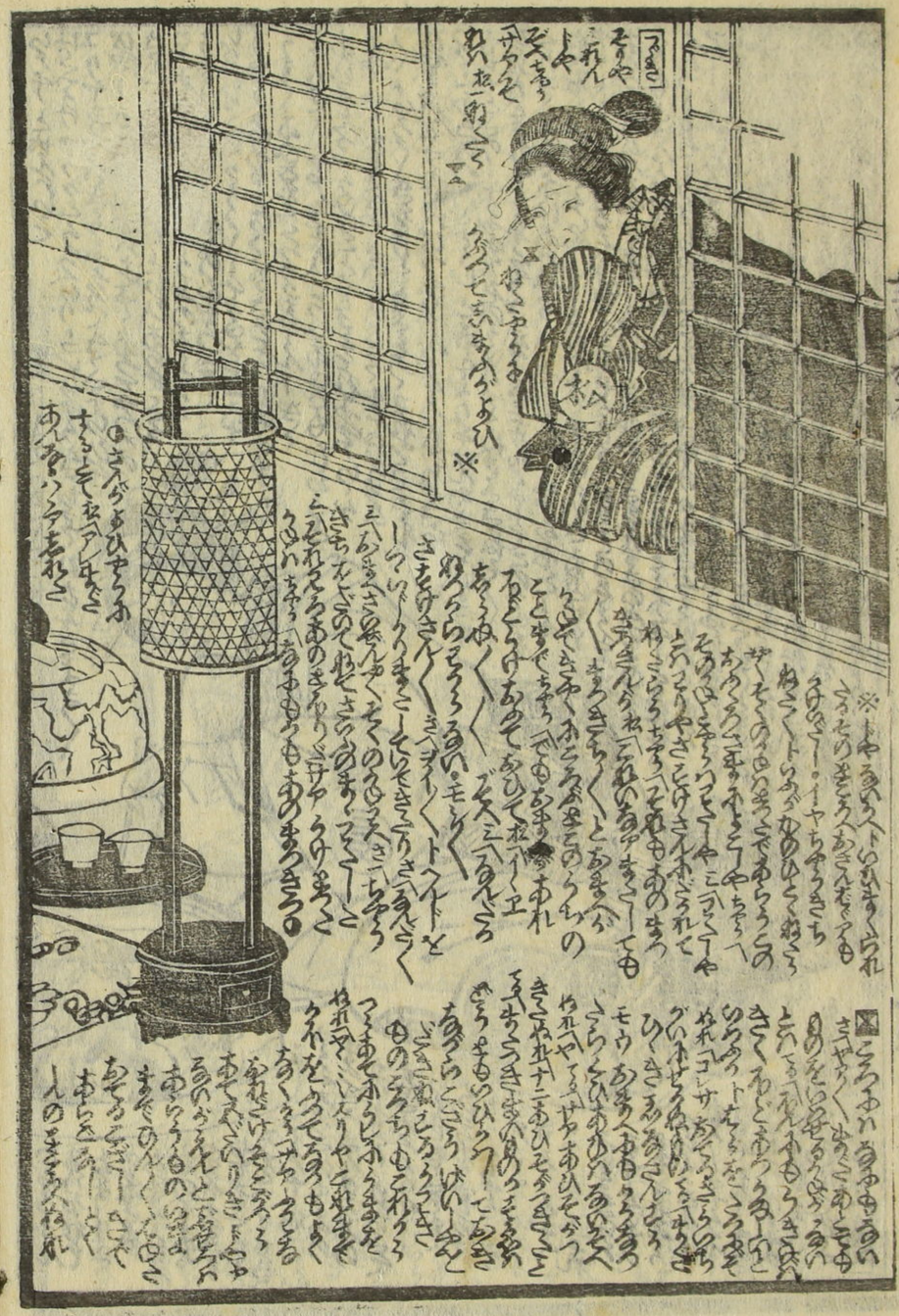
松
源

由

三
松

長
佐

長



種清綴圖貞画

石大屋

永